

作家 大岡昇平

いししいきお
石井勲先生のこと

私は文章を書くのが職業であったため、石井先生(東京都四谷第七小学校教諭)の優れた漢字教育の諸システムを、一般に紹介した人間という光栄を持つことになった。一昨年の春、朝日新聞に随筆を書く約束になっていた時、たまたま石井先生の授業を参観する機会があり、強い感銘を受けた。石井先生は、漢字の象形文字という性質を利用して、一年生に基本的な漢字を教えていた。先生が「電」という字を黒板に書き、「『雷』からしっぽの出たものなあに。」と児童に質問することにより、その意味を推測させ、おぼえさせていた。わたしは、先生の教え方の効力に驚き、その驚きを素直に語ったにすぎない。

今日では、全校石井先生のシステムを取っている学校もあるという。すぐれた業績が、いつまでもあらわれずにいることは、どうせで
きなかつたのである。先生のシステムが、本書のような学習的な本となつて、一層知られることは、たいへんうれしい。

よい成績は石井方式で

評論家 福田恆在

日本人は概して保守的な民族なのですが、「ことば」の問題となると奇妙に進歩的ななる。おそらく、だれもが、日本語に対して、多かれ少なかれ劣等感を抱いているからでせう。そのため、「大衆のため」「子どものため」と称しては、不合理な表記法改革をする。何のことはない、「子ども」「大衆」といふかくれみをつけた、劣等感の育成にすぎません。こんなへっぴり腰の教育観で、子どもを教育してゐるのが現状です。最近、水道方式とか、プログラム学習とか、学習の能率化が、世の母親の間に大流行といふのも、こんなことが原因なのでせう。でも、私なら、さういふ学習方式以前の問題として、学習の基本となる国語教育に、効果が証明ずみの石井さんの漢字学習法をお勧めします。はるかによい成績がをさめられるでせう。幸ひ、本書には、個々の漢字の教へ方まで、親切に書かれてをります。母親の最もよい手引きとなることは疑ひありません。(歴史的かなづかひによる)

漢字は必要です。

東京大学教授 文学博士 宇野精一

いわゆる進歩的国語政策論者の必死の策動にもかかわらず、世間から一向に漢字はなくなることはない。一方、子どもの漢字力の低下を心配する声も決して衰えない。ということは、要するに、日本語を読み書きするには、どうしても漢字が必要だという何よりの証明である。必要なものなら、なるべく能率的に教えたいし、教える責任がある。石井さんの漢字教育方式は、こういう見地から考え出された。そして多くの実験を重ねた結果、今や全面的実施に移るべき時となった。しかもそれは一日でも早い方がよい。ただし、石井方式は、天動説の迷妄を打ち破った地動説のようなものであるから、従来、これに対していろいろな誤解や偏見も多かった。しかし、それらもすべて、本書によって解決されるであろう。教師はもちろん、教育に関心のある親たるものは、ぜひとも熟読されるよう切望する。